



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：国民会議選挙の実施

(7日付ハヤート紙ほか)

研究員 江崎 智絵

2012年7月7日、リビアで、カザーフィー政権崩壊後初となる国民会議選挙が実施された。最高選挙委員会によれば、国民会議選挙の暫定的な投票率は、60%程であるとされた。開票作業は、7月9日もしくは10日まで行われるようであり、それが終了した段階で暫定的な選挙結果が判明する見通しとなっている。

7月7日付ハヤート紙によれば、リビアの有権者には、ムスリム同胞団系の「正義開発党」とは距離を取り、小政党の集まりでリベラルな「国家勢力同盟」を好む傾向があるとされた。同紙は、リビア国民が過激な権威主義的政府ではなく、穏健な政府を求めているとの見方を示した。

ヌール・アッバール同委員会委員長によれば、東部を中心に妨害工作が発生したが、1,554カ所の投票所のうち開場できなかったのは24カ所に留まり、全投票所の94%で投票が行われた。

リビア東部では、国民会議の議席配分をめぐり、不満が高まっていた。7月5日には、東部の連邦制支持者15名からなる集団がRas Lanuf港にある2つの石油ターミナルに押しかけ、操業を停止するよう要請した。同事件のため港は閉鎖され、石油の汲み上げ等が停止された。

なお、当初の予定では、今回選出された国民会議が憲法制定委員会のメンバーを任命することになっていた。しかし、7月5日、国民暫定評議会は、国民の声をより反映するために、憲法制定委員会のメンバーを国民会議による任命ではなく、選挙によって選出することを決定した。